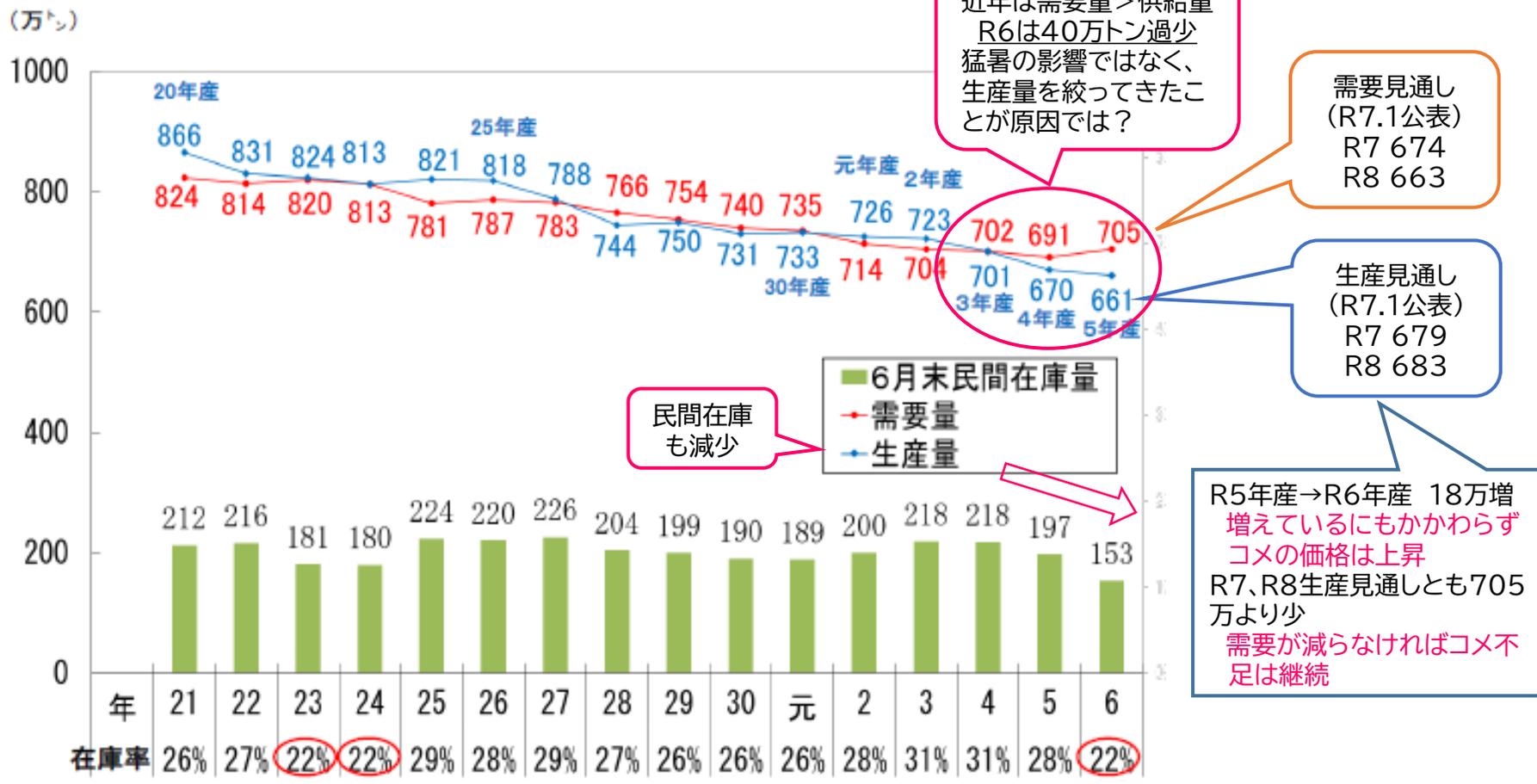


最近の米の需給動向(需要量、生産量、民間在庫)～主食用～



農水省分析: 需要が堅調であること(昨年より14万トンの需要増)の要因は以下のとおり。

- ①食料品全体の価格の上昇が続く中、米の価格が相対的に上昇が緩やか
- ②インバウンド等の人流の増加
- ③高温・渇水の影響により、精米歩留まりが低下

主食用米等の令和6/7年及び令和7/8年の需給見通し(令和7年1月公表基本指針)

【令和6/7年の主食用米等の需給見通し】

(単位:万トン)		
令和6年6月末民間在庫量	A	153
令和6年産主食用米等生産量	B	679
令和6/7年主食用米等供給量計 C=A+B		832
令和6/7年主食用米等需要量	D	674
令和7年6月末民間在庫量 E=C-D		158

R5より18万増

R6の実績は705万

【令和7/8年の主食用米等の需給見通し】

(単位:万トン)		
令和7年6月末民間在庫量	E	158
令和7年産主食用米等生産量	F	683
令和7/8年主食用米等供給量計 G=E+F		841
令和7/8年主食用米等需要量	H	663
令和8年6月末民間在庫量 I=G-H		178

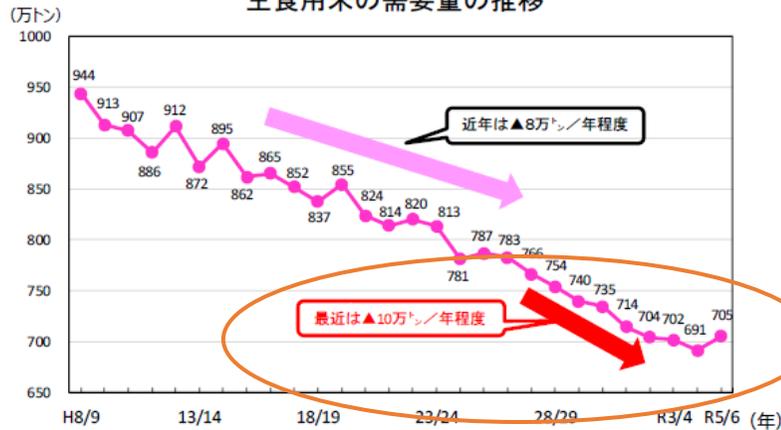
R6より4万増

毎年10万程度減少と考えている

注1: 上記の見通しは、国内で生産された主食用米等の需給見通しであり、SBS方式による輸入米は含まれない。
注2: ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

(参考)

主食用米の需要量の推移



相対取引価格と民間在庫量の推移

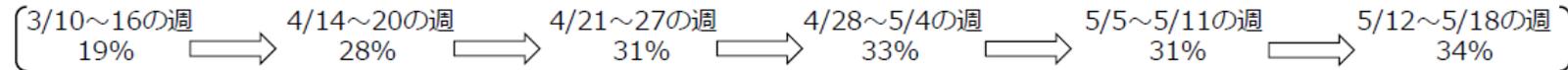


R7がR6と同程度であることからR8も高値必至

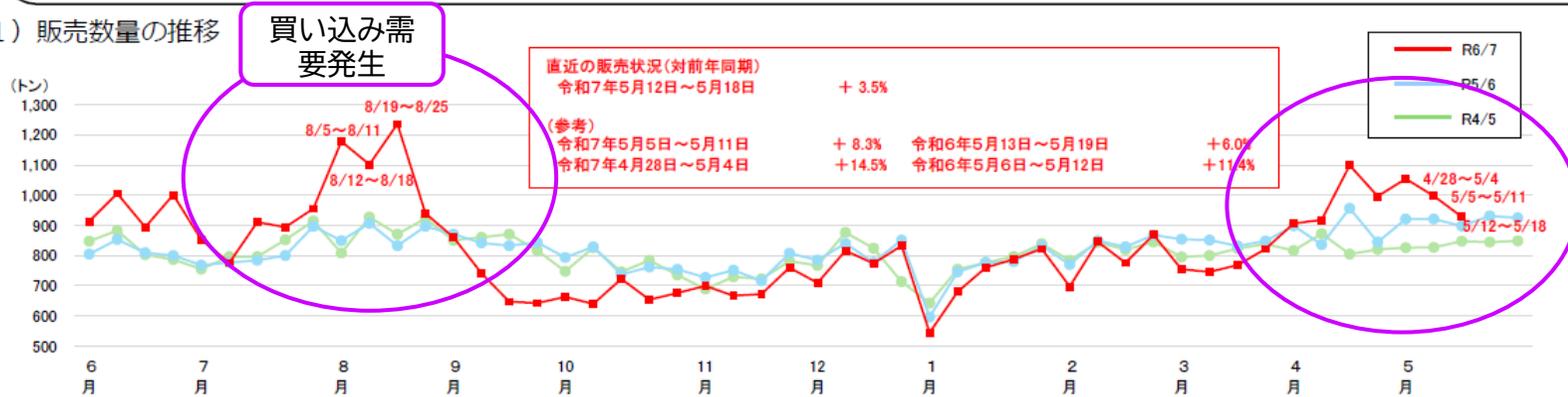
注: 相対取引価格は、当該年産の出回りから翌年10月まで(令和6年産は6年12月の速報値)の通年平均価格であり、運賃、包装代、消費税相当額が含まれている。

スーパーでの販売数量・価格の推移 (POSデータに基づき作成、全国・週次)

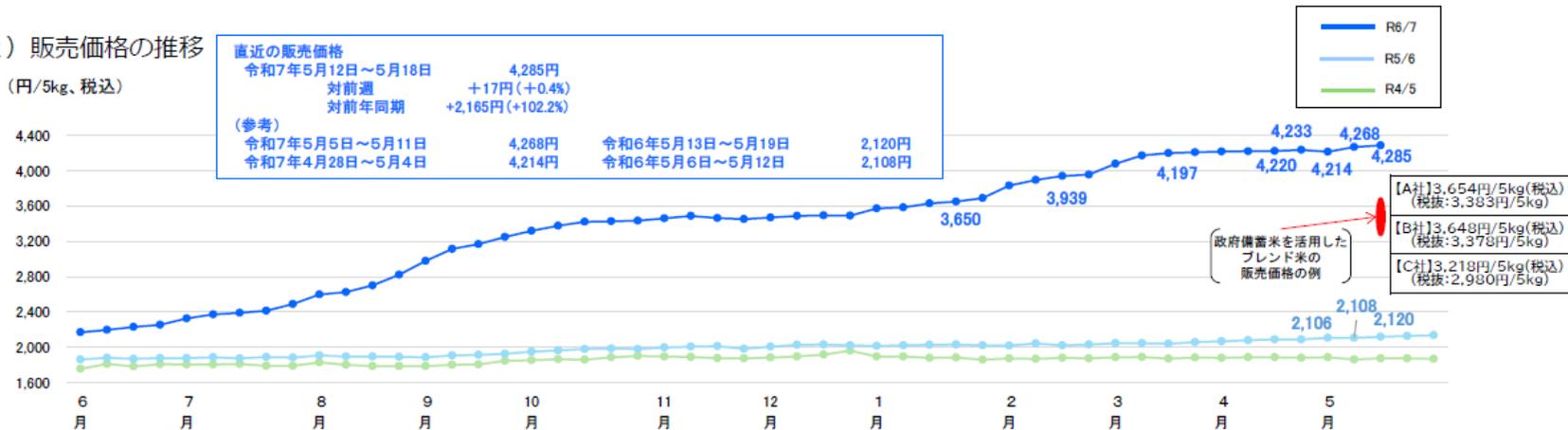
- 販売価格については、昨夏以降前年より高い水準で推移し、令和7年5月12日の週は4,285円/5Kg。(対前年同期+102.2%、前週比+0.4%)
- 販売数量に占めるブレンド米等の比率は、政府備蓄米の流通が進むと共に増加傾向で推移。



(1) 販売数量の推移



(2) 販売価格の推移



資料:(株)KSP-SPが提供するPOSデータに基づいて農林水産省が作成
注1:(株)KSP-SPが提供するPOSデータは、全国約1,000店舗のスーパーから購入したデータに基づくものである。
注2:週次データを月ベースに当てはめているため、実際の月とは若干異なる場合がある。
注3:『ブレンド米等』には、ブレンド米のほか、PB商品等も含まれる。

備蓄米の入札状況

販売対象米穀・数量

申込上限数量：「売渡予定数量」×「申請者の集荷数量のシェア」に基づき上限を設定

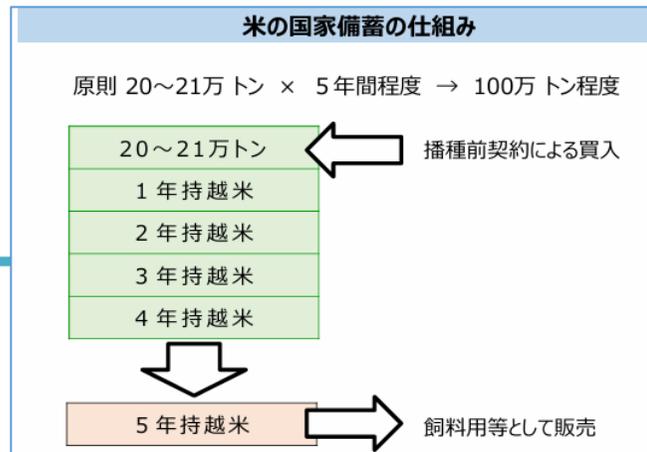
対象米穀：令和6年産米及び5年産米

対象数量：31万トン

※夏まで毎月、政府備蓄米の売渡しを実施。

【入札詳細】

第1回入札	契約数量：141,796トン 落札価格（落札された販売区分の加重平均）： 21,217円/60kg（税抜き）	→	1,768円／5kg
第2回入札	契約数量：70,336トン 落札価格（落札された販売区分の加重平均）： 20,722円/60kg（税抜き）	→	1,726円／5kg
第3回入札	契約予定数量：100,164トン 落札価格（落札された販売区分の加重平均）： 20,302円/60kg（税抜き）	→	1,691円／5kg
入札執行日	第1回 3月10日～12日（3月3日公告） 3月18日以降引渡し 第2回 3月26日～28日（3月19日公告） 4月11日以降引渡し 第3回 4月23日～25日（4月16日公告） 5月中旬以降引渡し予定		



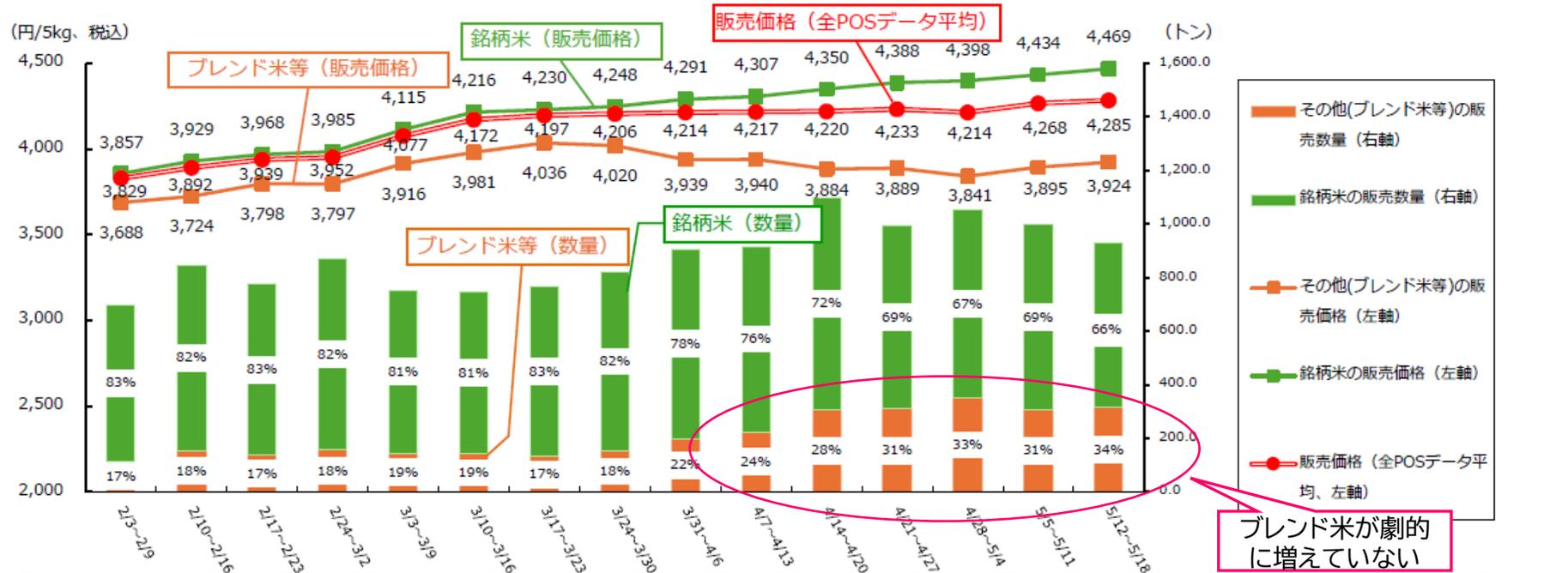
入札価格はR6の農家への支払価格（1,667円/5kg）より高額
→販売価格の低下につながりにくくはないか
→政府は儲けている

店頭販売価格
4,285円(税込み)
3,967円(税抜き)

随意契約米 古古米 税抜 古古古米
11,010円/60kg(917.5円/5kg) 10,080円/60kg(840円/5kg)

価格上昇をもたらしているのは銘柄米

※高くてもおいしいコメを買いたい人は結構いる？
 →積極的にブレンドしない、備蓄米流通遅れる
 随契米がでて銘柄米の価格は下がらない？
 ※ブレンド米は出し惜しみして銘柄米を買わせている？
 →随契米ができれば、銘柄、ブレンドともに安くなる
 ただ、どこまで続くか？
 ※今後は、銘柄米、ブレンド米、随契米に3極化



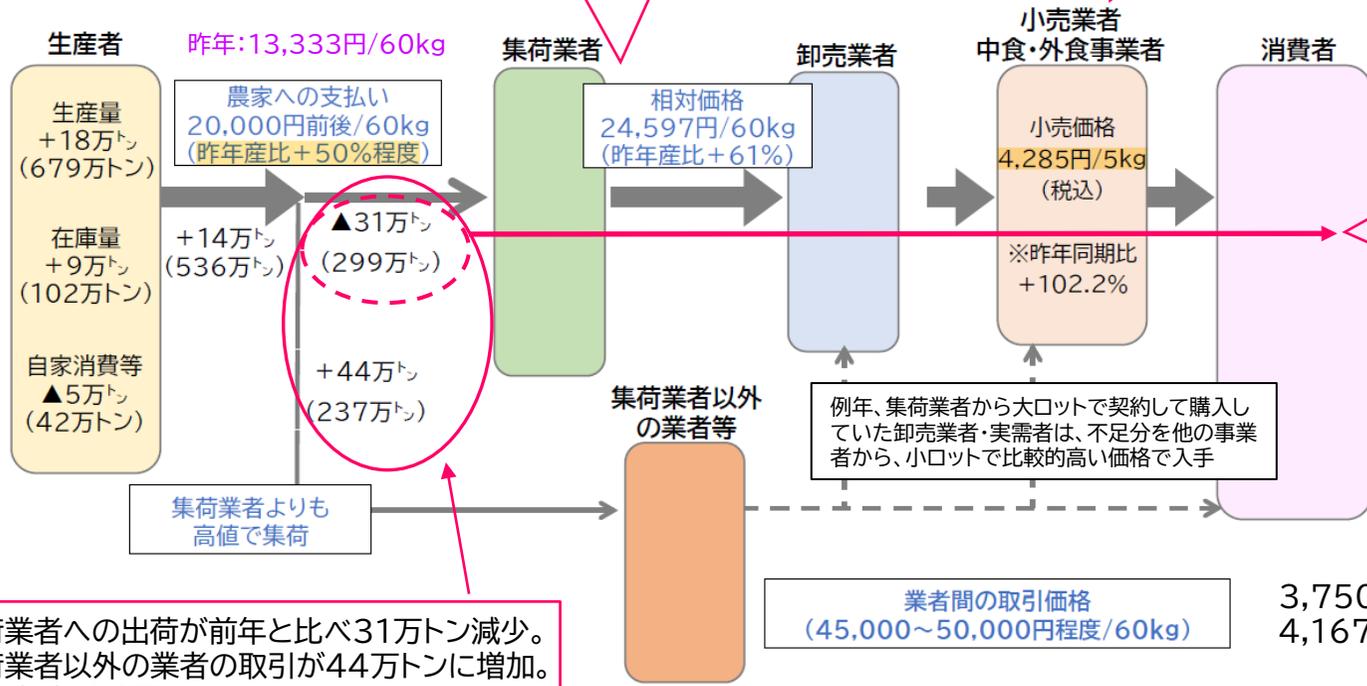
	2/3~2/9	2/10~2/16	2/17~2/23	2/24~3/2	3/3~3/9	3/10~3/16	3/17~3/23	3/24~3/30	3/31~4/6	4/7~4/13	4/14~4/20	4/21~4/27	4/28~5/4	5/5~5/11	5/12~5/18
銘柄米の販売価格 (円/5kg、税込)	3,857	3,929	3,968	3,985	4,115	4,216	4,230	4,248	4,291	4,307	4,350	4,388	4,398	4,434	4,469
その他(ブレンド米等)の販売価格 (円/5kg、税込)	3,688	3,724	3,798	3,797	3,916	3,981	4,036	4,020	3,939	3,940	3,884	3,889	3,841	3,895	3,924
全平均販売価格 (円/5kg、税込)	3,829	3,892	3,939	3,952	4,077	4,172	4,197	4,206	4,214	4,217	4,220	4,233	4,214	4,268	4,285

小売価格の上昇の背景

1,667円/5kg ⇒ 備蓄米の落札価格の約89%
 この段階で、昨年度より50%程度高い値段で農家に支払っている
 ・諸物価の高騰による生産経費の増加に配慮？
 ・JA以外の集荷業者との競争？
 →後者であれば、農家の所得向上に寄与

2,050円/5kg
 JAの集荷経費は、383円/5kg
 昨年度より61%増で、少し利益も増やしているか？

4,285円/5kg
 2,235円も増加これは何故？
 高くても消費者は買うからか(銘柄米)？



生産量が増加し、JAルートでの供給が安定すれば価格は低下し、安定するか？
 農家は困るが...

集荷業者への出荷が前年と比べ31万トン減少。
 集荷業者以外の業者の取引が44万トンに増加。
 JAの割合が低下
 ↓
 今年もこのせめぎあいが続く、高止まりになるものと予想される

JA以外の集荷業者が例年より高い値段で集荷していれば、そこから先の販売価格も上昇
 集荷量も44万トン増加

コメ生産農家の規模別農家数・作付面積

■ 1ha未満 ■ 1ha~3ha未満 ■ 3ha~20ha未満 ■ 20ha以上

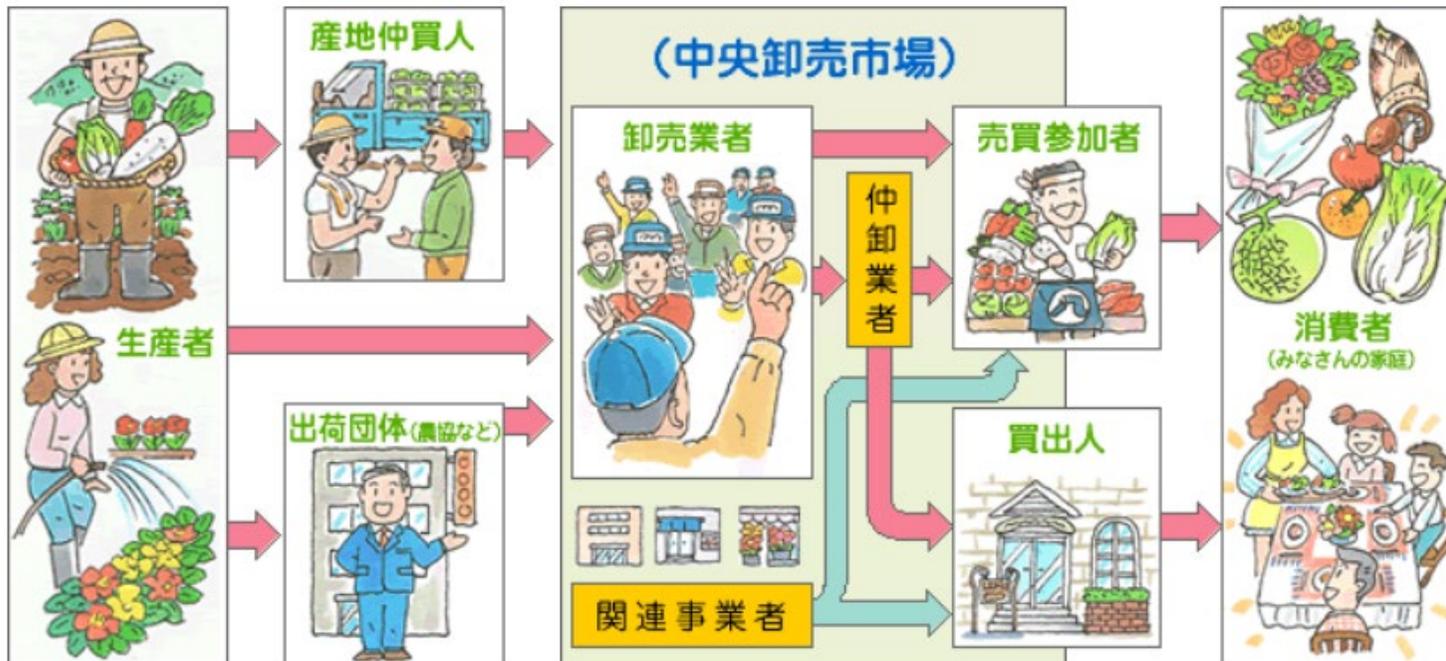


規模別 農家の生産コスト (2021年データ)

稲垣氏提供資料を基に書籍作成



流通の仕組み



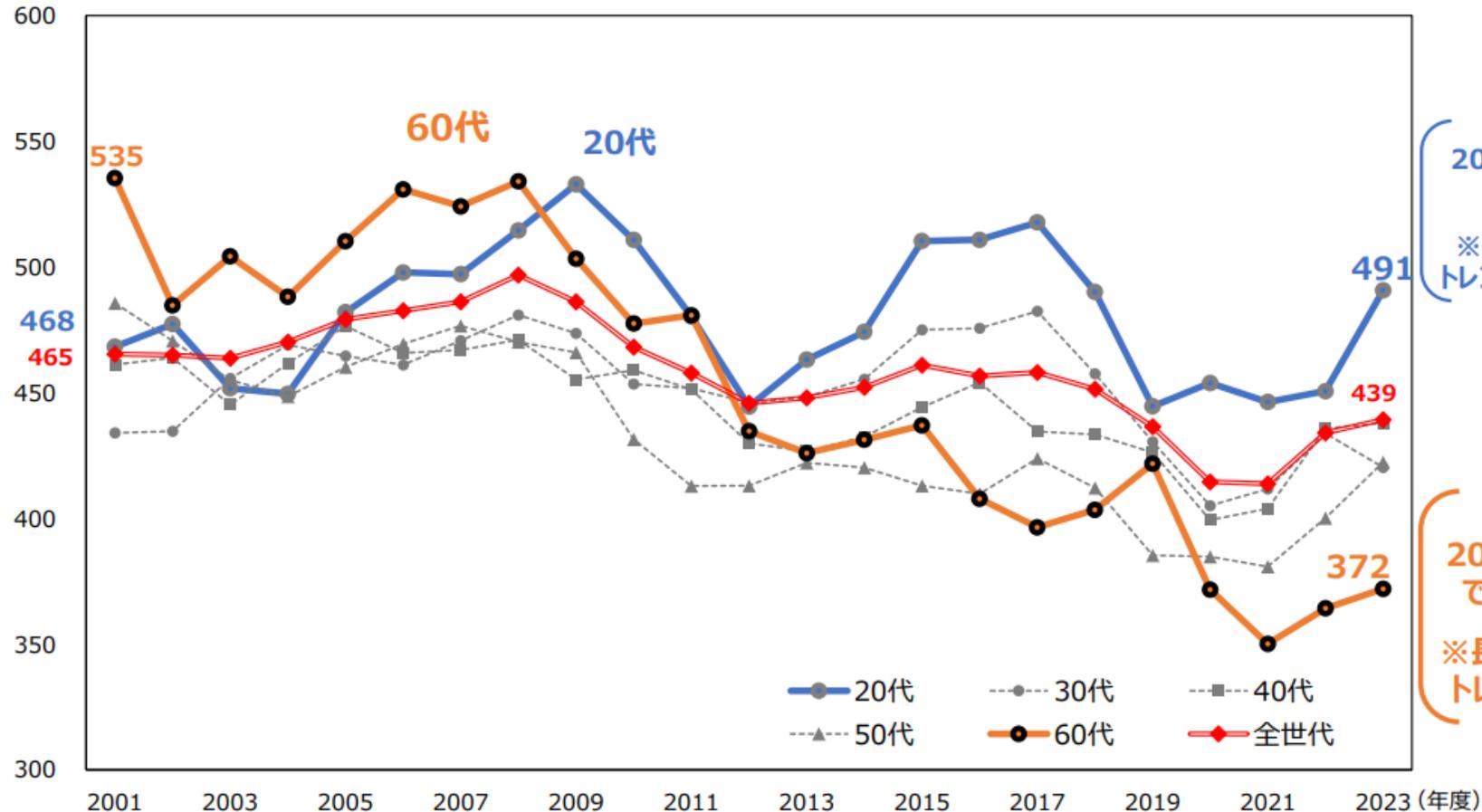
出典：流通の仕組み
| 松山市中央卸売市場 | 愛媛県松山市

注:「TI値」®とは、Table Indexを指し、1000食卓当たりの当該食品の出現頻度を現す(株式会社ライフスケープマーケティングの登録商標)。

年齢階層別の米飯類のTI値®の推移

- 年齢階層別での、米飯類のTI値®の長期的推移を見ると、
 - ・ 20代の食生活における米飯類の登場頻度は長期的には横ばい傾向である一方、
 - ・ 60代では2001年度から2023年度の22年間で登場頻度が約3割減少している。

年齢階層別の米飯類のTI値®の推移



20代
2001→2023で
5%増加
※少なくとも減少
トレンドとはいえない。

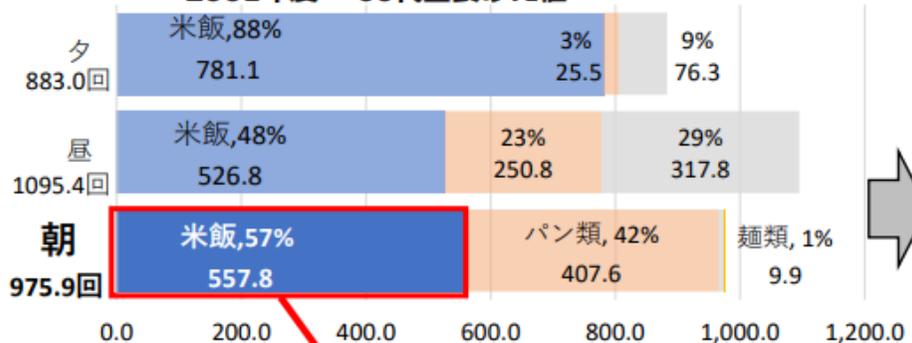
60代
2001→2023
で30%減少
※長期的に減少
トレンドにある。

出典：株式会社ライフスケープマーケティングの提供データに基づき農林水産省作成。
調査対象：東京都心から半径30km以内に居住し、配偶者がいる家族世帯の1,252人（人数は2001年度から2023年度の平均値）。

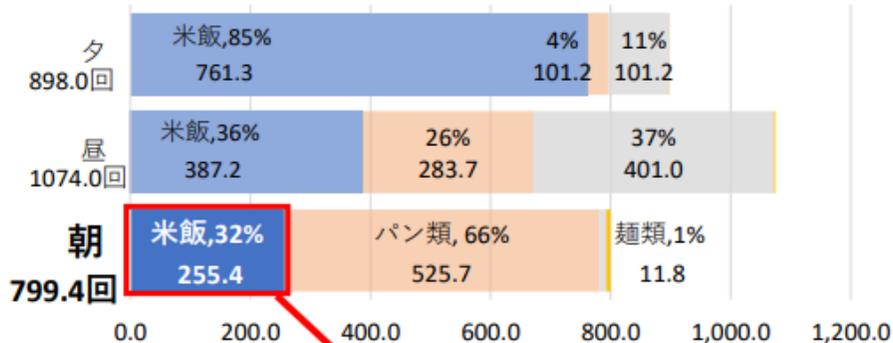
60代の朝・昼・夕食における主食のTI値®、米飯メニューの変化

- 60代の食事について、朝・昼・夕食における主食（米飯、パン類、麺類、シリアル類）の登場頻度（TI値®）の推移を見ると、
 - ・ 朝・昼・夕とも米飯TI値® 減少しているが、特に朝食における米飯TI値® が著しく減少している。（557.8→255.4回）
 - ・ 米飯メニュー別では、ご飯TI値® が著しく減少（412.1→166.7回）、調理時間の掛かるメニューが減少する一方で、玄米・雑穀など健康志向ご飯、おにぎり・丼・洋風ライス等ワンプレートの簡便志向ご飯が増加している傾向が窺える。

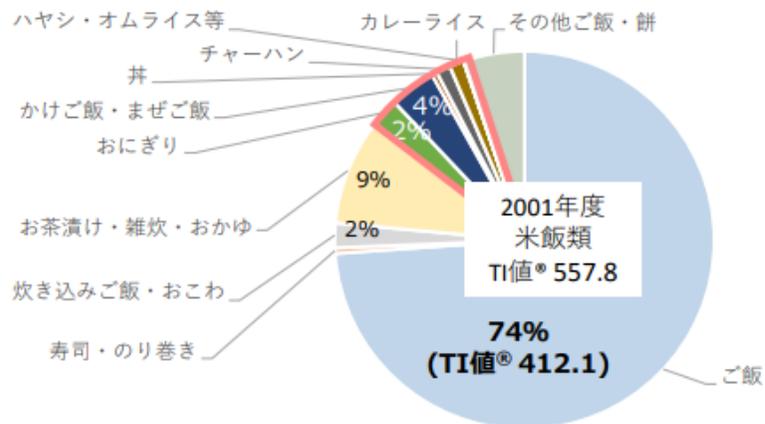
2001年度 60代主食のTI値®



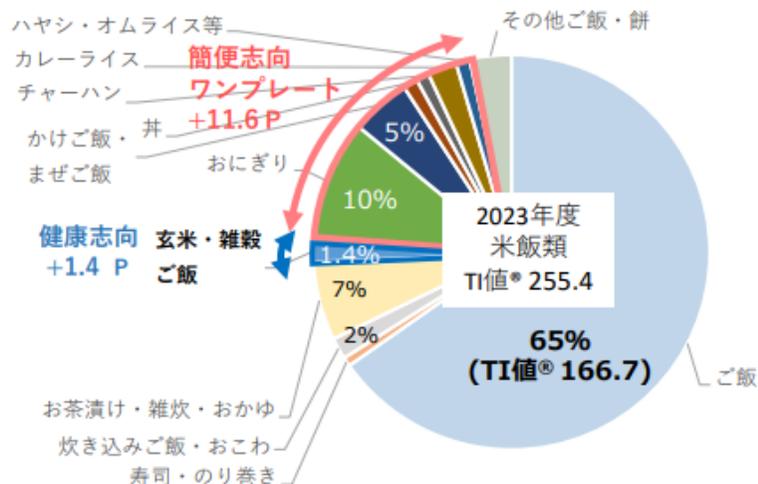
2023年度 60代主食のTI値®



米飯メニュー構成比



米飯メニュー構成比



出典：株式会社ライフスケープマーケティングの提供データに基づき農林水産省作成。

調査対象：東京都心から半径30km以内に居住し、配偶者がいる家族世帯の1,252人（人数は2001年度から2023年度の平均値）。